

安全データシート (SDS)

作成 : 平成 15 年 03 月 20 日

最新改訂 : 令和 02 年 05 月 15 日

【1.製品名及び会社情報】

製品名 :	Mg (Powder,Granule)
会社名 :	フルウチ化学株式会社
住所 :	東京都品川区南大井 6-17-17
担当部門 :	営業部
電話番号 :	03-3762-8161
FAX 番号 :	03-3766-8310
緊急連絡先 :	同上
推奨用途 :	電子部品材料、研究用途、工業用途。
整理番号 :	200515-06Hs

【2.危険有害性の要約】

GHS 分類

物理化学的危険性

可燃性固体 :	区分外
水反応可燃性化学品 :	区分 1
金属腐食性物質 :	区分外

健康有害性

皮膚腐食性/刺激性 :	区分 2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 :	区分 2A
特定標的臓器毒性 (単回暴露) :	区分 3 (気道刺激性)

環境有害性 :

水生環境慢性有害性 :	区分 4
-------------	------

※記載のないものは、分類対象外または分類できない

GHS ラベル要素

シンボルマーク :



炎



感嘆符

注意喚起語 :

危険

危険有害性情報 :

- ・ 水に触れると自然発火するおそれのある可燃性

Furuuchi chemical SDS

No: 200515-06Hs Magnesium

／引火性ガスを発生

- ・ 皮膚刺激。
- ・ 強い眼刺激。
- ・ 呼吸刺激を起こすおそれ、または、眠気やめまいのおそれ。
- ・ 長期的影響により水生生物に有害のおそれ。

注意書き：

<予防策>

- ・ すべての安全注意(SDS など)を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 激しい反応と火災発生のおそれがあるため、水と接触させないこと。
- ・ 湿気を遮断し、不活性ガス下で取り扱うこと。
- ・ 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入しないこと。
- ・ 適切な保護手袋および保護眼鏡または保護面を着用すること。
- ・ 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・ 取扱後はよく手を洗うこと。
- ・ 環境への放出を避けること。

<応急措置>

- ・ 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。
- ・ 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・ 眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- ・ 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
- ・ 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
- ・ 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- ・ 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師に連絡すること。
- ・ 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
- ・ 火災の場合には、適切な消火剤を使用すること。

<保管>

- ・ 容器を密閉し、換気の良い冷暗所で施錠して保管すること。

<廃棄>

- ・ 関連法規ならびに地方自治法に従い、都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託すること。

【3.組成、成分情報】

単一製品・混合物の区別：	単一製品
化学名又は一般名：	Mg
別名：	マグネシウム、Magnesium
化学式：	Mg
濃度範囲：	99.9%以上
CAS 番号：	7439-95-4
官報公示整理番号：	—

【4.応急措置】

Furuuchi chemical SDS

No: 200515-06Hs Magnesium

- ・ 以下のいずれの場合も直ちに医療機関に連絡し、医師または医療機関に適切な指示を求めるとともに速やかに医師の診断を受けられるように手配する。

飲み込んだ場合：

- ・ 速やかに口をすすぎ、医師に連絡すること。
- ・ 気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。

吸入した場合：

- ・ 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・ 気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合：

- ・ 多量の水と石鹸で洗うこと。
- ・ 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
- ・ 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

目に入った場合：

- ・ 直ちに瞼を開き多量の流水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、洗浄を続けること。眼球・瞼の裏、その他目の細部に至るまで完全に洗浄し、少なくとも20分間は行うこと。
- ・ 処置の最中から医療機関での処置に至るまで、被災者に付添人をつける。
- ・ 眼の刺激が持続する場合、気分が悪い場合は、医師の診断、手当てを受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状：

- ・ 眼接触：発赤、痛み。
- ・ 経口摂取：腹痛、下痢。
- ・ 吸入： 咳、息苦しさ、頭痛、感覚麻痺、脱力感、発熱又は体温上昇。

最も重要な兆候及び症状：

- ・ データなし。

その他：

- ・ 暴露の影響は遅れて出ることがある。
- ・ 医師、医療関係者に暴露の状況を伝えるとともに、2次災害を防ぐための注意を通知する。

【5.火災時の措置】

消火剤：

- ・ 粉末消火剤、乾燥砂、塩化ナトリウム粉、黒鉛粉、Met-L-X^R粉（金属または粉末火災）。

使ってはならない消火剤：

- ・ 水、泡消火剤。

特定の危険有害性：

- ・ 水・湿度と反応し、引火性の水素ガスを発生するおそれがある。
- ・ 熱、裸火、火花等により発火のおそれがある。
- ・ 消火後再び発火するおそれがある。
- ・ 火災時に刺激性あるいは有毒なヒューム／ガスを発生するおそれがある。
- ・ 消火水が汚染を引き起こすおそれがある。

消火方法：

- ・ 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・ 危険でなければ火災区域から容器を移動する。

Furuuchi chemical SDS

No: 200515-06Hs Magnesium

- ・ 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却し、消火後も十分に容器を冷却すること。
- ・ 消火活動は、有効に行える十分な距離から行う。
- ・ 容器に水を入れてはならない。
- ・ 消火作業は風上から行う。
- ・ 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護：

- ・ 消火は周囲の安全を確保し、適切な呼吸装置、防護衣などを着用して行う。

【6.漏出時の措置】

人体に対する注意事項：

- ・ 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
- ・ 適切な保護具を着用するまで、破損した容器、漏出した本品に接触してはならない。
- ・ 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離し、関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・ 風上から作業する。
- ・ 低地から離れる。
- ・ 密閉された場所に立ち入るときは、事前に十分換気をする。

環境に対する注意事項：

- ・ 環境への放出を避けること。
- ・ 漏出物が河川、水路へ流出または地下へ浸透することを防ぐ。

回収・中和：

- ・ 封じ込め及び浄化方法・機材：危険でなければ漏れを止める。
- ・ 廃棄に関しては「13.廃棄上の注意」を参照すること。

二次災害の防止：

- ・ 乾燥した土、砂や不燃材で覆い、更にプラスチックシートで覆い、散乱を防ぐと共に雨にぬらさない。
- ・ 裸火、火花等、発火源を速やかに取り除く。
- ・ 漏洩物や容器内に水をかけない。

【7.取扱い及び保管上の注意】

取扱い

技術的対策：

- ・ 「8.暴露防止及び保護措置」の記載事項を参照のこと。
- ・ 皮膚や眼、衣服等に付着しないように、保護具、保護設備を使用する。
- ・ 粉じんが発生する場合は密閉化すること。

局所排気／全体換気：

- ・ 「8.暴露防止及び保護措置」の記載事項を参照のこと。

注意事項：

- ・ 作業場所では換気を十分に行う。
- ・ 緊急時に備えて、安全シャワーや洗眼の設備を備える。

安全取扱注意事項：

- ・ 使用前に取扱説明書、SDS等を入手すること。
- ・ 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 激しい反応と火災発生の危険があるため、水と接触させないこと。
- ・ 熱／火花／裸火／高温のもののような発火源から遠ざけること。
- ・ 粉じん、ヒュームの発生を防ぐこと。粉じんが堆積しないようにすること。

Furuuchi chemical SDS

No: 200515-06Hs Magnesium

- ・ 接触、吸入または飲み込まないこと。
- ・ 適切な個人用保護具を着用すること。
- ・ 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・ この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
- ・ 取扱後は手をよく洗うこと。
- ・ 屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。
- ・ 環境への放出を避けること。

接触回避：

- ・ 「10.安定性及び反応性」を参照。

保管

適切な保管条件：

- ・ 容器に密閉し、換気の良い乾燥した冷暗所に施錠して保管する。

避けるべき保管条件：

- ・ 水、日光、熱、着火源、混触危険物。

混触危険物質：

- ・ 「10.安定性及び反応性」を参照。

【8.暴露防止及び人に対する保護措置】

設備対策：

- ・ この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
- ・ 暴露を防止するため、設備の密閉化又は局所排気装置を設置する。

暴露限界値

管理濃度：	労働安全衛生法	3.0mg/m ³ (金属の粉じん)
許容濃度：	日本産業衛生学会 (2010)	第3種粉じん 2mg/m ³ (吸入性粉じん) 8mg/m ³ (総粉じん)
	ACGIH (2007) TWA	未設定

保護具：

- ・ 呼吸用保護具： 適切な呼吸保護具を着用すること。
- ・ 保護メガネ： 適切な保護メガネ、顔面保護具を着用すること。
- ・ 保護手袋： 適切な保護手袋を着用すること。
- ・ 保護長靴： 適切な保護具を着用すること。
- ・ 保護衣： 適正な保護衣を着用すること。

【9.物理的及び化学的性質】

外 観：	灰色の固体
臭い：	無臭
pH：	データなし
融点／凝固点：	651℃
沸点、初留点と沸騰範囲：	1100℃
引火点：	データなし
発火点：	データなし
燃焼または爆発の範囲：	下限 0.03 Kg/m ³ (3.02vol%)
蒸気圧：	1Pa (428℃)
蒸気密度：	データなし
比 重：	1.738 (20℃)

Furuuchi chemical SDS

No: 200515-06Hs Magnesium

溶解度： 水に不溶
オクタノール／水分配係数： $\log Pow = -0.57$ (推定)
分解温度： データなし

【10.安全性及び反応性】

安全性： 空気や湿気／水分に触れると自然発火し、刺激性若しくは有毒なヒュームを生成することがある。
反応性： 空気と混合すると、粉じん爆発の可能性がある。
強酸化剤と激しく反応する。
酸、水または空気中の湿気と反応し、引火性の水素ガスを生成し、火災や爆発の危険をもたらす。
加熱、炎により発火のおそれがある。
酸類、酸化剤、ハロゲン、金属酸化物、硫黄、炭酸塩、リン酸塩、硫酸塩など多くの物質と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件・材料： 熱、発火源、日光、混触危険物質。
危険有害な分解生成物： 水素、マグネシウム酸化物のヒューム。

【11.有害性情報】

急性毒性： 経口 データなし
経皮 データなし
吸入 データなし
その他 経口摂取により毒性を示す。
粉末及び刺激性蒸気の吸入により金属ヒューム熱を生じる。
皮膚腐食性／刺激性： 皮膚を刺激するとの記載がある (HSDB access on Oct. 2011 ; HSFS,1999 ; SITTIG 4th,2002) 。区分 2。
なお、皮膚に付着した粒子により気泡が生じ、長期的にガス壊疽を生じる (HSDB access on Oct. 2011) 、との情報がある。
眼に対する重篤な損傷／刺激性： 眼を刺激するとの記載がある (HSDB access on Oct. 2011 ; HSFS,1999 ; SITTIG 4th,2002) 。区分 2A。
生殖細胞変異原性： データなし。
呼吸器または皮膚感作性： データなし。
発ガン性： 日本産業衛生学会 (2010) 、IARC (2007) 、NTP (2005) 、ACGIH (2006) に記載がない。
生殖毒性： データなし。
特性標的臓器／
全身毒性(単回暴露)： 呼吸器、肺又は気道を刺激する (HSDB access on Oct. 2011 ; HSFS,1999 ; SITTIG 4th,2002) との記載がある。区分 3 (気道刺激性)
特定標的臓器／
全身毒性(反復暴露)： データ不足のため分類できない。
吸引性呼吸器有害性： データなし。
注意： 使用者は未知の有害性を常に存在するものとして十分な注意を払う必要がある。

Furuuchi chemical SDS

No: 200515-06Hs Magnesium

【12.環境影響情報】

水生環境有害性(急性)： データ不足のため分類できない。
水生環境有害性(慢性)： L(E)C₅₀ ≤ 100mg/L であるが、金属であり水中での挙動が不明である。区分 4。

【13.廃棄上の注意】

残余廃棄物： 廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って、危険有害性のレベルを低い状態にする。
産業廃棄物として、規則に従って廃棄すること。
容器： 付着物があることを十分に認識し、洗浄等して廃棄すること。
産業廃棄物として、規則に従って廃棄すること。

【14.輸送上の注意】

- 陸上輸送：毒物および劇物取締法および消防法の規制に従う。
- 海上輸送：船舶安全法の規制に従う。
- 航空輸送：航空法の規制に従う。
- 安全対策：重量物を上積みしない。
輸送に際しては、直射日光を避け容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
- 国連分類：クラス 4.3
- 国連番号：1418
- 緊急時応急措置指針番号：138

【15.適用法令】

化審法： —
労働安全衛生法： 危険物・発火性のもの(マグネシウム粉, 法第 20 条二、令別表第 1)
化学物質管理促進法 (PRTR 法)： 非該当
毒物及び劇物取締法： 非該当
消防法： 危険物第 2 類・可燃性固体 (マグネシウム; 法第 2 条第 7 項別表第 1)
* 目開きが 2 mm の網ふるいを通過しない塊状のもの、直径が 2 mm 以上の棒状のものを除く (危規 1 の 3③)
船舶安全法： 可燃性物質類・可燃性物質 (マグネシウム粉末又はマグネシウム合金粉末; 危規則第 2 条、第 3 条危険物告示別表第 1)
航空法： 可燃性物質類・可燃性物質 (マグネシウム粉末; 則第 194 条危険物告示別表第 1)

【16.その他の情報】

- 記載のデータや評価に関しては必ずしも十分ではありません。全ての化学製品には未知の危険有害性が有るため、取扱いには細心の注意が必要です。
- ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定ください。また特別な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上でご使用ください。
- 本データシートそのものは安全な取扱いを確保するための参考情報として提供されるもので

Furuuchi chemical SDS

No: 200515-06Hs Magnesium

あり、安全の保証書ではありません。

- ・ 製品の形状、状態に対する注意
 - i. 製品名に対し、基本的に形状による物理化学的危険性、健康有害性及び環境有害性の変化が小さいときは、その形状を規定していない場合があります。但し、本文中で形状の変化による危険性、有害性の変化に言及していることもあります。また弊社にて想定していない環境においては、形状の差異により危険性、有害性が高まる場合もあります。
 - ii. 製品名に対し Powder, Granule の表記がある場合は、製品が粉末又は顆粒状であることを意味しています。主に金属の場合には粉末状で、発火や爆発の危険性が高まる場合がありますので、ご注意ください。
 - iii. 製品名に対し、Piece の表記がある場合は以下のような粉末状以外の形状を示しています。但し製品が塊状の場合であっても、保管、取扱いの状況により粉末（粉じん）が発生し、危険性、有害性が高まる可能性があります。形状の変化が起こり得る保管、使用環境が想定される場合には、事前に安全対策を実行してください。
Piece: Chips, Flakes, Chunk, Shot, Sheet, Wire, Stick, Rod, Pellet, Block, Ingot, Target.

参考文献

- ・ (独) 製品評価技術基盤機構 (NITE)
- ・ 理化学事典 第4版 岩波書店
- ・ 化学物質安全性データブック OHM 社
- ・ 化学品安全管理データブック 長瀬産業(株)
- ・ 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告
- ・ THE MERCK INDEX 12th EDITION
- ・ HSDB
- ・ ACGIH
- ・ 緊急時応急措置指針 改訂第3版 日本規格協会

【改訂履歴】

平成 15 年 03 月 20 日	第 1 版	整理番号 030320-16Ta	全般改訂
平成 16 年 11 月 18 日	第 2 版	整理番号 041118-06Ha	情報の追加・修正
平成 17 年 06 月 03 日	第 3 版	整理番号 050603-02Ha	情報の追加・修正
平成 23 年 10 月 03 日	第 4 版	整理番号 111004-04Hm	GHS 表記への対応等
平成 30 年 05 月 30 日	第 5 版	整理番号 180530-05Hm	消防法に関する記載の一部追記
令和 02 年 05 月 15 日	第 6 版	整理番号 200515-06Hs	住所等修正